

# 【国内外に打って出る攻めの農林水産戦略】

## ●施策2-1の代表指標

### ①主な園芸作物の販売額

#### ■年度別目標

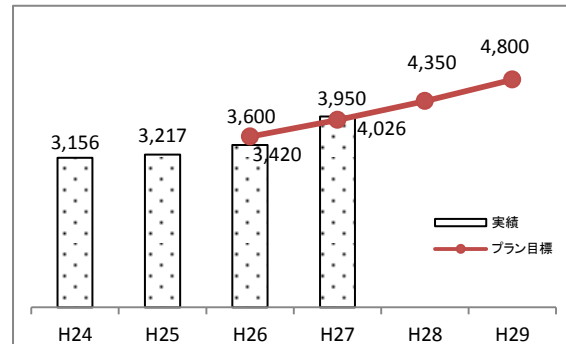
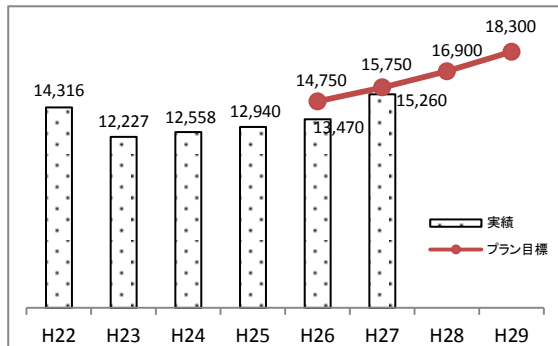
H27達成率(96.9%)

(単位:百万円)

|     | 基準値(H24) | H26    | H27    | H28    | H29    |
|-----|----------|--------|--------|--------|--------|
| 目標値 | 12,558   | 14,750 | 15,750 | 16,900 | 18,300 |
| 実績値 |          | 13,470 | 15,260 | —      | —      |

#### 代表指標の推移

(参考)関連指標・重点野菜3品目(ねぎ、アスパラガス、えだまめ)の販売額(単位:百万円)



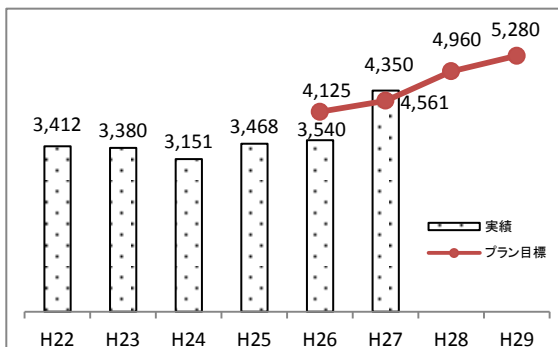
### ②黒毛和牛の出荷額

#### ■年度別目標

H27達成率(104.9%)

(単位:百万円)

|     | 基準値(H24) | H26   | H27   | H28   | H29   |
|-----|----------|-------|-------|-------|-------|
| 目標値 | 3,151    | 4,125 | 4,350 | 4,960 | 5,280 |
| 実績値 |          | 3,540 | 4,561 | —     | —     |



## 代表指標の達成度に関する分析

### 【代表指標①】主な園芸作物の販売額

- ・主な園芸作物の販売額は年々増加傾向にあり、平成27年度は前年度より約18億円増加し、15,260百万円となった。
- ・要因は、えだまめ、ねぎ、アスパラガスの3品目を中心に、“オール秋田体制”で生産・販売対策を集中的に実施するとともに、園芸メガ団地の整備や県育成オリジナル品種の生産拡大・販売促進を図った結果による。

### 【代表指標②】黒毛和牛の出荷額

- ・出荷頭数は4,421頭(前年度比98%)と横ばいであるものの、全国的に枝肉価格が高水準で推移していることから、1頭当たりの平均出荷価格が1,032千円(同132%)と上昇し、出荷額も4,561百万円となった。
- ・要因は、牛枝肉卸売価格が平成23年度以降上昇に転じ、全国的な頭数不足や和牛の輸出量の増加等の影響を受け高水準で推移していることが考えられる。

# 【国内外に打って出る攻めの農林水産戦略】

## ●施策2-2の代表指標

### ①秋田県産米の需要シェア

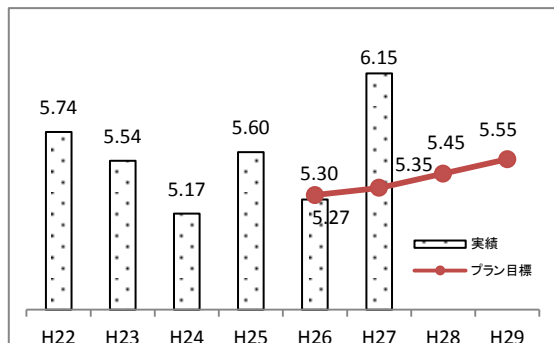
#### ■年度別目標

H27達成率(115.0%)

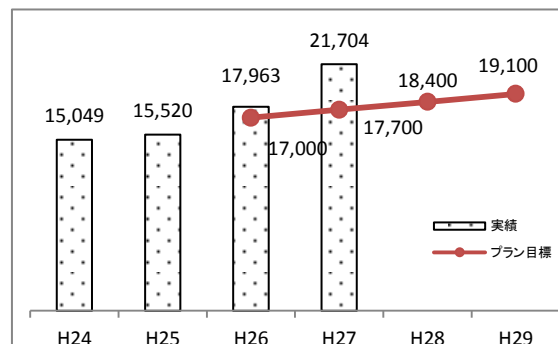
(単位: %)

|     | 基準値(H24) | H26  | H27      | H28  | H29  |
|-----|----------|------|----------|------|------|
| 目標値 | 5.17     | 5.30 | 5.35     | 5.45 | 5.55 |
| 実績値 |          | 5.27 | 6.15(速報) | —    | —    |

代表指標の推移



(参考)関連指標・非主食用米の作付面積(単位: ha)



### 代表指標の達成度に関する分析

・消費者の低価格志向の強まりや他産地の台頭などで、近年の全国の需要量におけるシェアは伸び悩んでいたが、平成27年産米は大幅に持ち直し、6.15%(速報値)となった。

・要因は、平成27年度は、全国的に飼料用米による転作が大幅に拡大したことで、低価格帯の米を中心に飼料用米へ置き換わり、中食・外食向けなど業務用米の需給が引き締まる中、主に業務用に使われる「めんこいな」等への需要が高まり、県産米のシェアが向上したものと考えられる。

# 【国内外に打って出る攻めの農林水産戦略】

## ●施策2－3の代表指標

### ①6次産業化に取り組む事業体の農業生産関連事業の販売額

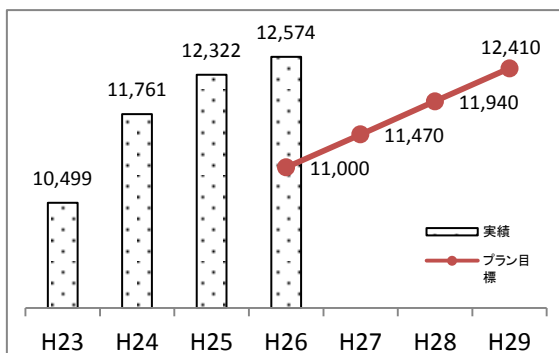
#### ■年度別目標

H26達成率(114.3%)

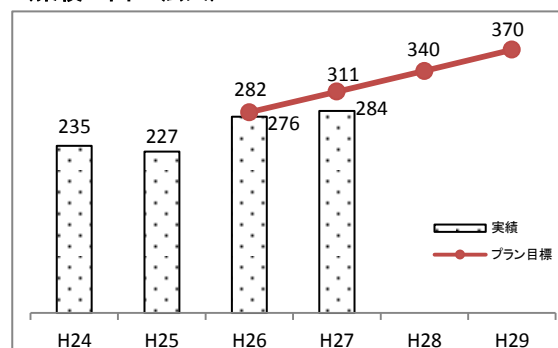
(単位:百万円)

|     | 基準値(H23) | H26    | H27    | H28    | H29    |
|-----|----------|--------|--------|--------|--------|
| 目標値 | 10,499   | 11,000 | 11,470 | 11,940 | 12,410 |
| 実績値 |          | 12,574 | —      | —      | —      |

#### 代表指標の推移



#### (参考)関連指標・食関連ビジネスに取り組む農業法人数 (累積 単位:法人)



### 代表指標の達成度に関する分析

・平成26年度は125億7千4百万円で、基準値となる平成23年度(104億9千9百万円)から19.8%増加している。なお、全国増加率(2.7%)と同程度の増加率で推移しているが、販売額の平成26年度の都道府県別の順位は45位であった。

・要因は、平成23～24年度にかけて、地域の農産物の直売や加工に取り組む気運が全国的に高まったことなどにより、本県の6次産業化に取り組む事業体数及び販売額は大きく増加し(40事業体・13億円の増)、その後も、地域におけるサポート体制構築や人材育成、機械や施設等の整備に係る支援制度の創設などにより、その販売額が堅実に増加しているためと考えられる。

# 【国内外に打って出る攻めの農林水産戦略】

## ●施策2－4の代表指標

### ①農業法人数(認定農業者)

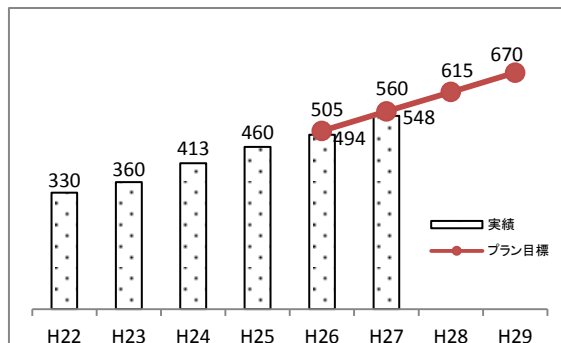
#### ■年度別目標

H27達成率(97.9%)

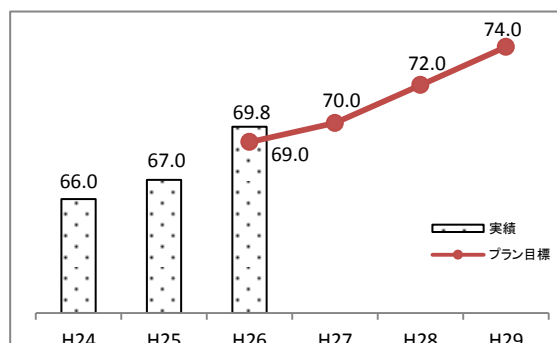
(単位:法人)

|     | 基準値(H24) | H26 | H27 | H28 | H29 |
|-----|----------|-----|-----|-----|-----|
| 目標値 | 413      | 505 | 560 | 615 | 670 |
| 実績値 |          | 494 | 548 | —   | —   |

#### 代表指標の推移



#### (参考)関連指標・担い手への農地集積率(単位:%)



### 代表指標の達成度に関する分析

・農業法人数(認定農業者)は増加傾向にあり、平成26年度からの増加数は54法人である。また、全国順位(平成26年度)を見ると、法人数で第11位、前年度からの増加数では第12位となっている。

・要因は、県では経営の法人化を重点推進事項に掲げ、対象を絞り込みながら集中的な支援に取り組んでおり、それが法人化に対する対象組織等の意識向上につながり、農業法人数が増加しているものと考えられる。

# 【国内外に打って出る攻めの農林水産戦略】

## ●施策2－5の代表指標

### ①素材生産量

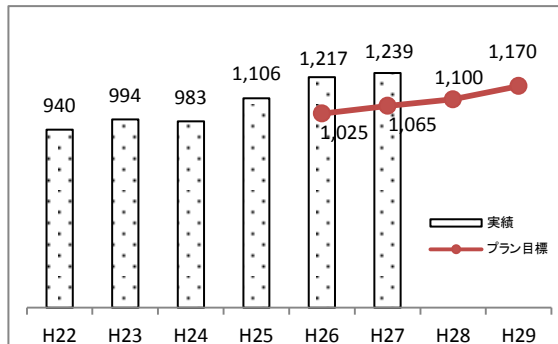
#### ■年度別目標

H27達成率(116.3%)

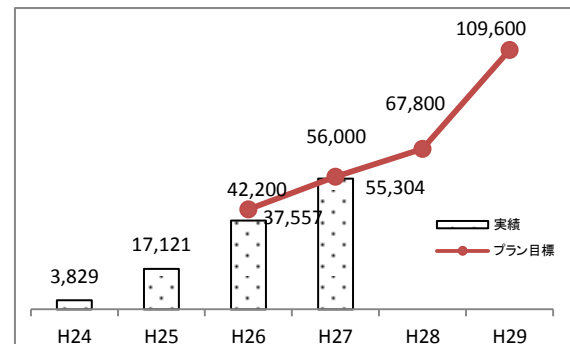
(単位:千m3)

|     | 基準値(H24) | H26   | H27   | H28   | H29   |
|-----|----------|-------|-------|-------|-------|
| 目標値 | 983      | 1,025 | 1,065 | 1,100 | 1,170 |
| 実績値 |          | 1,217 | 1,239 | —     | —     |

#### 代表指標の推移



#### (参考)関連指標・木質バイオマス燃料の利用量(単位:t)



### 代表指標の達成度に関する分析

・円安による外材から国産材へのシフトや住宅着工数の増加、木質バイオマスの利用拡大など、近年の木材需要は増加してきており、素材生産量は平成21年から増加傾向にある。ここ2年は、平成元年以来となる120万m<sup>3</sup>を超える水準まで回復してきている。また、本県の素材生産量は全国で4位、東北で2位となっている。

・要因は、本県の誇る日本一のスギ資源が本格的な利用期を迎えており、これに合わせ、原木の低コスト生産・安定供給に向けた取組や県産材の需要拡大等を進めてきた結果、素材生産量は目標を達成したものと考えられる。

# 【国内外に打って出る攻めの農林水産戦略】

## ●施策2－6の代表指標

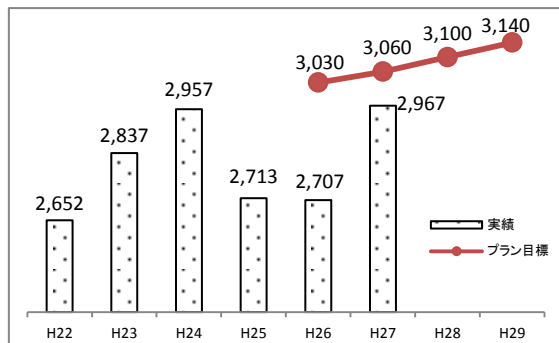
### ①海面漁協組合員1人当たりの漁業生産額

#### ■年度別目標

H27達成率(97.0%)

(単位:千円)

|     | 基準値(H24) | H26   | H27   | H28   | H29   |
|-----|----------|-------|-------|-------|-------|
| 目標値 | 2,957    | 3,030 | 3,060 | 3,100 | 3,140 |
| 実績値 |          | 2,707 | 2,967 | —     | —     |



### 代表指標の達成度に関する分析

・海面漁協組合員1人当たりの漁業生産額は、近年の魚価の低迷等により伸び悩んでいたものの、平成27年度実績においては前年度を26万円上回った。

・要因は、輸入水産物の増加や国民の魚離れなどの影響により、全国的に魚価は低迷している状況にあり、漁獲量全体の約2割を占めるハタハタの漁獲量も減少傾向にあるが、漁協の直売活動等の成果により前年度を上回ったものと考えられる。